



会

報

北海道自然保護協会

1983 一愛別・永山・当麻岳(三ノ沼)一

昭和58年9月

No. 44

協会活動状況

(特別の記載のないものは、すべて会場は事務所において、都合により出席者を省略)

●昭和五十八年六月二十九日(水)
五十八年度第二回常務理事会
主な議題

- 一、自然観察指導員講習会の日程の件
- 二、会費滞納会員の取り扱いの件
- 三、会報の編集方針の件
- 四、自然観察会の実施計画の件
- 五、自然観察指導員に対するアフターケアの件
- 六、熊牛水力発電計画の件
- 七、チョウザメの生息情報収集依頼の件
- 八、理事の分担分野の件

●七月十七日(日)
自然観察会
場所 札幌市西山市有林
講師 木内 栄氏

●七月二十日(水)
釧路湿原保全対策検討会(環境庁)
八木会長出席
参加者三十名

●七月二十五日(月)
五十八年度第三回常務理事会
主な議題

- 一、委託調査の受託の件
- 二、財政問題の件
- 三、自然観察会の実施計画の件
- 四、講演会の開催の件
- 五、知事対談テーマの件

六、大雪山国立公園内高原温泉地区の歩道利用の件

七、石狩浜のアリ塚の件

●七月二十六日(火)
大雪山国立公園内高原温泉地区の歩道利用にかかる検討会(道庁)

八木会長出席
●八月六日(土)～八月八日(月)
第五十二回北海道自然観察指導員講習会

主催 (社)北海道自然保護協会
(財)日本自然保護協会
後援 北海道教育委員会
美瑛町

協賛 (財)前田一步園財団
場所 上川郡美瑛町字白金
講師 石川信夫(旭川実業高校教諭)
大山 明(旭川南高校教諭)
金田 平(神奈川県立新羽高校教諭)

工藤父母道(〈財〉日本自然保護協会主任研究員)
柴田敏隆(〈財〉山階鳥類研究所資料室長)
八木健三(北海道大学名誉教授)

参加者六十七名

●八月十五日(月)
五十八年度第四回常務理事会
主な議題

- 一、日高横断道路の件
- 二、北海道自然観察指導員連絡協議会の件

取り扱いの件

●八月十八日(木)

日高横断道路(静内―中札内線)計画に対する要望書を北海道知事あて提出
●八月二十一日(日)～二十三日(火)
釧路湿原保全対策検討会現地視察(環境庁)
八木会長出席

自然観察会に

参加して

真鍋 鉄雄

出不精で野外に出かけることもなく、休日には家でテレビにかじりつく習慣になっていましたが、自然保護協会に入会したのを機会に、昨年は小林峠と八垂別の滝、今年は西山市有林での自然観察会に参加しました。

観察会では、植物・動物などの専門家から親切な解説がお聞きでき、また参加者同士の会話などから、自然について多方面から観察する知識も得られ勉強になります。

今年の自然観察会は七月十七日、西山市有林で開催され、講師は札幌市役所の木内栄さんで、家族連れなど三十名が参加し、林内の道路を二時間程度散策しましたが、道端にカブト虫がいて、小学生が歓声をあげていました。また、途中で

マムシの赤ちゃんがつかまえられ、講師から「殺すか、放すか、どうしますか」と全員の意見を尋ねられ、「殺す」という声が多かったけれど、「普通は殺すのだけれど、自然観察会なので今日だけは殺すのを勘弁しましょう」と放された。地蜂の巣が見つかり、参加者一同巣を

●お知らせ

講演と映画の夕べ

主催 (社) 北海道自然保護協会
(株) 北海道新聞社

後援 サツポロビール(株)
サントリー(株)

皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、次のおと「講演と映画の夕べ」を計画いたしましたのでご案内いたします。今年度は当協会の会員であり、自然保護に造詣の深い、芥川賞作家の加藤幸子女史をお招きいたしました。

演題の「都市と自然」では、女史の自然保護運動の体験、文学との関わりなどをお話しいただける予定です。

映画「北海道の湿原」は釧路湿原を中心に、北海道における湿原の四季の姿を美しく紹介したものです。また、「フライト・ツウ・サバイバル」は、タンチョウや世界各地のツルの生態や保護について紹介したものです。

お誘いあわせのうえ、奮ってご参加下

囲んで、住宅地内の蜂の巣の除去方法について、経験談をまじえた意見がかわされる一幕もありました。私は、仕事の関係から西山市有林には何度も行っていますが、いつもは目的の箇所に行き帰るだけで、二時間近く歩くのは初めてであり、なにげない自然でも三十名の目

さいますようお願いいたします。

とき 昭和五十八年九月二十七日

(夕午後六時～八時三十分)

ところ 道新大通館七階A・B会議室

(札幌市中央区大通西三丁目)

六)

プログラム

一、映画「北海道の湿原」

映画紹介 辻井達一(北大農学部助教授)

二、映画「フライト・ツウ・サバイバル」

映画紹介 八木健三(当協会会長)

三、講演「都市と自然」

加藤幸子女史

講演者紹介 八木健三

入場 無料(定員三〇〇名)

申し込み方法

座席に限りがありますので往復ハガキでお申し込み下さい。抽選のうえ、三〇〇名の方に入場整理券を発行いたします。なお、返信用ハガキにはご自分の住所、氏名を必ず記入して下さい。

で見れば、カブト虫もマムシも、蜂の巣も簡単に見つかることはおどろきであり(札幌に住んで二十年、市内で初めてマムシを見ました)、また路傍の裸地にはカラマツの自然に生えたものが見られ非常にめずらしかった。

来年の自然観察会にも、ぜひ参加した

申し込み先

〒〇六〇 札幌市中央区大通西三丁目六

北海道新聞社事業局文化部

「講演と映画の夕べ」係

申し込み締切り

九月二十日(必着のこと)

懇談会「自然保護について」

とき 昭和五十八年十月一日(土)

午後一時三十分～四時

ところ 北大百年記念館大会議室

(北九条西六丁目 北大正門を入ってすぐ)

特にテーマをしぼらず、自然保護全般に関する諸問題、当協会のあり方などについて、自由な雰囲気て会員相互の意見の交流の場といたしたいと考えております。

最近入会された方、自然保護活動に経験深い方、どうぞおさそいあわせのうえ多数ご出席下さい。

いと思っておりますが、三十名も集まると講師のお話がよく聞きとれないのでハンドメイクなど用意願いたいのと、自然の中で昼食を取れるように計画されるのが望ましいと思います。もう味覚の秋、キノコの観察でもあったらいいなと思っております。

(会員・札幌市)

西山市有林

自然観察会に参加して

福地 郁子

曇り空の七月十七日、札幌市豊平区有明にある西山市有林の観察会に参加しました。当日の講師の木内さんのご説明は多方面の自然観察にわたり大変興味のあるものでした。それによると、この林は標高三百二十一mの白旗山を中心に自然歩道となっており、市民の山菜取り、キノコ取りとなじまれ、この時期には、知る人ぞ知る、クマイチゴ、ヘビイチゴの採集に数人の人が出かけて来ておりました。ある程度、植物等の採集をする楽しみを味わってもらおう市有林とし、またいろいろ手を加え今後は総合機能の高い森林に変えて行く計画があるということをお聞きしました。あいにく的期的には鳥の姿はあまり見られず、鳴き声もヒヨドリシジュウカラ等の留鳥でふだんの林の様子でした。林を進むうちに、北海道では



講習会風景

新しい自然観察指導員 誕生

めずらしいトチノキの大木に出合いました。びっくりして見ていまして、モチモチの木のお話を思い出してなつかしく思いました。また、来年大通公園に移植予定のホオノキも根まわしが終って、おいでありませんが、はたして来年元気がよく根づくか心配なことです。大変むずかしい木ということでした。さらに進んで行くト山部川のせせらぎにウグイスの声も聞かれました。そして、思わぬ珍客のママシの子供にもお目にかかりました。木内さんのお話では、ママシにも性格があって温厚なもの、キツイものと、そのキ

ツイものがたまたま人間にかみつくということでした。人間社会と似ているのだと感心しました。オヒョウニレ、ミヤマザクラ、イヌトリヤナギ、ヘビイチゴ、ヤナギラン、ヤマユリなど、こんな小さな山でしたが意外に草木類が豊富で感心いたしました。また、地質的には、八木会長の説明で基盤は支笏石流堆積物というところで、あちこちに火山灰の中に軽石が見られました。半日の豊富な自然観察で楽しいひとときが送れたことを感謝いたしております。

(会員・札幌市)

当協会が主催してから、三回目の自然観察指導員講習会が、去る八月六日〜八日十勝岳山麓の白金温泉地区で実施されました。当地を襲った猛暑をもとめせず二泊三日のあいだ、朝六時から夜十時までのハードスケジュールを消化し、有意義のうちに六十七名の指導員を誕生させて終了しました。

新しく自然観察指導員になられた方々は次のとおりです。

真鍋幸雄、柳沢信雄、大坊幸七、佐々木静雄、高田隆二、大友 健、古川 昭、大和一彦、青柳祐一、佐竹俊男、下村弘之、畑中嘉輔、中山秀男、石山 昇、横山 秀、小島圭子、福地郁子、作宮洋子、柳沢千代子、岩泉ゆう子(札幌市)吉田裕二、岡村秀雄、森 常孝、坂井恒俊、三浦国彦、寺島一男、久保田とし子(旭川市)村住忠彦、都島秀史、久保田裕和

安井幸紀、佐藤文、立原厚子、土井里江子、東條昌子(帯広市)長岡宏幸、長岡範子(岩見沢市)但野五之、奥村栄次郎(広島町)中村広治(芽室町)佐々木仁(東川町)山田純悦(和寒町)八木鉦太郎(早来町)猪狩秀雄(大滝村)旭雅人(上川町)遠山五十二(苫小牧市)小野裕進(網走市)有田智彦(羽幌町)大館和広(紋別市)佐々木 功(鶴川町)小栗 宏(歌登町)田中 等(幌延町)三木 昇(江別市)安井美智子(登別市)坂口敏子(北見市)里見郁夫、中川数也、石田京子(東京都)芳野 昇、有坂繁、大木敏嗣(埼玉県)鈴木久直(宮城県)鶴岡壮一(山梨県)仲谷武男(大阪府)小林 登(茨城県)前林 篤(千葉県)池田千鶴子(京都府)

自然観察指導員 講習会に参加して

柳沢 信雄

○こんな気持ちで

バードウォッチングや自然観察会の指導をたのまれて、自分なりの指導を続けながら、そのたびに何かいま一つ物足りなく、これで良いのかという不安がいつも心のどこかにあった。また、このような観察会が自然保護とどのように結びつ

くといえるのか、自分なりにすっきりした考えを持ち、確信を持って指導にあたりたいという願いも強かった。こんな不安が解消され、願いが達成されるようにと参加しました。

○講習会

野外実技については解る解らないは別として、一緒に動ける自信はあったが、夜三時間の講義では居眠りが心配だった。しかし、柴田、金田両講師の巧みな話術とそれにも倍するお二人の自然保護への強い情熱がピリピリと受講者の肌伝わって来るような意気込みに圧倒されてとても居眠りどころではなく、かえって終了後も眼が冴えて消燈が残念な感じで、仲間と話し合う時間が痛切にほしかった。野外実技では、最終日の「テーマさがしとカリキュラム作り」、「指導をしてみよう」に皆が青くなった。意図的にそうしたのか、北海道自然保護協会の日程及び内容には「野外実技指導」とあるだけ。のんびり参加をきめこんでいたところ、ドカンと一発見舞われた形で、消燈時間が過ぎてもうろたえ助けを求める者張りきる者でにぎわった。

朝は四時頃から飛び出しうろつく人、ベンチで頭をかかえる人、しかし、時間は容赦なく過ぎて、いよいよ本番、互いに緊張の中で始まる。一グループ十名は指導する者される者がいつの間にか一つになり、緊張も解け和やかな雰囲気が増しさを増す。特に若者達が選んだテーマにはユニークなものが多く、感心させられた。朝のうちに見つけておいた動物な

どの糞が見当らず持ち時間五分間のざりざりまで、グループ全員が糞探し、やっと思つて歌声をあげる班があつたり、アリの観察では穴から出てくる予定のアリが姿を見せず、あわてて地面をたたくといったハプニングも交えて楽しいなかで全員無事に終えた。

○これから

自然保護の熱意あふれる指導者に中味の濃い研修をびつしり受けたが、こちらに十分な下地が無いせいかスカッとしたところまではいかなかった。しかし、少なくとも今までは違つた考え方で取り組もうという気持はできたように思う。すでにある組織でこれからも続く観察会が少しでも変わるよう努力したい。

今回の講習で出来なかつた参加者の交流会は後日ぜひ計画され、話し合える場がつくられることを望んでいます。

(会員・札幌市)

自然観察指導員

講習会に参加して

横山 瑋

自然観察指導員講習会は、白金温泉として知られる十勝岳中腹、国立大雪青年の家」を拠点に、八月六日から三日間にわたって開かれた。

それは、(社)北海道自然保護協会に

とつては第三回目の、また、(財)日本自然保護協会にとつては第五十二回目に当る催して、後者から出講された自然哲学者・推進役の三指導者を中核に、前者の講師陣・役員、および道・道教委・地元美瑛町の協力のもとで、六十七名の参加者を集めてのものであつた。

ペーパードライバーよろしく名目会員として十数年を経てしまつていた私にとつて、当講習会に参加することは、自然保護協会が置かれてきた状況を運動体の内側から見る好機であつた。

参加者は、北は幌延町、南は大阪府から集まり、二十才のお嬢さんから八十才でかくしやくとした老人まで、大学で環境学を専攻する学生グループ、小・中・高校で教鞭を振る教師、長年林業経営で勤めあげた役人や民間人、国立大学の名誉教授といった雑多な人々の寄り集まりであつたところに当講習会の特色があつた。

これら雑多な受講者たちが、自然と人間の活躍舞台の接点に位置する国立の施設において学び得た自然哲学を自らのものにし、普遍的な理念にまで高めてゆけるか、また実践的な自然保護運動の指導者となつてゆけるかどうかは、受講者一人一人の資質と努力にまたねばならないであらう。

雑多な寄り集まりには雑多な価値観が存在する。このことは自然保護協会が外部から様々な色眼鏡で見られることをも意味している。自覚の希薄な会員による一発言が、開発推進省庁や各種団体、文部省や日教組、はびこりつつある右翼団

体等にとつては恰好な餌食となり果ててであらうことを見た思ひであつた。

すばらしい自然が備えもつリズムへの配慮に乏しい国立施設とそこで規律に身を委ねてみた時に、隣接地での軍事演習の轟音は、半世紀前の軍国主義日本の足音をも思ひ出させてくれた。一般国民は知らぬ間に巧みな国家的陰謀開発の民に陥つてゆくものなのかも知れない。

価値の偏在と遍在について考えさせられることの多い今日このごろではある。

(会員・札幌市)

自然観察指導員

講習会に参加して

岩泉ゆう子

十勝岳山麓の雄大な自然の中で開催された第五十二回自然観察指導員講習会は連日の暑さのうへ、ハードスケジュールであつたが無事受講を終えることができた。野外での実技指導から夜間の講義まで全日程をふり返ると、とても充実した内容ゆたかなものだったと思う。

森の中の生命の営みは倒木更新や土壌動物を見て窺い知ることができたが、そのためにはさまざまな方向、角度から森を眺める必要があることを教えられた。また、自然観察会でのコースの選択やリーダーのあり方といった実際的なもの、

それらの骨格となる「自然のしくみや人との関係」についてのお話によって、マクロに自然を見ること、特殊なものではなく、普通のものを中心にして人と自然とのつながりを考えることの重要性を認識させられた。

私にとつて、もつとも難しかったのは「自然保護を考える」だった。「自然を愛することは平和を愛すること」、「自然は子孫からの借りもの」、これらの言葉に自然保護の根本精神は集約されていると思う。しかし、自然破壊の進められてゆく現実や、時に疑問を感じる自然志向のブームを前にして、人間が自然に対して思いを及ぼさず、どこまで謙虚でいられるかを考えると、自然保護の将来が必ずしも順調ではないことを知らされる。それだけに大きな課題として残つた。

最終日は前二日間の総決算ともいえる小グループ別の野外実習テストが主であつた。側溝のコケ類、ツル植物と樹木の関係、枯木の上半分を伐り芝生に置く不自然さなど、それぞれの着眼点の鋭さに驚かされた。私は「身近な鳥たち」をテーマにしたが、問いかけの答から話をうまく発展させることができず、力不足ともその見方の甘さを痛感した。

講習会は確かにスケジュールのきつものであるが、ここで得た知識や経験をまず身近なところから生かせるよう努めたい。開催会場の規則などで無理だつたと思うが、もう少し自由時間があつたなら、各地から参加した受講者の間の交流ももっと深められたのではないだろ

うか。それが唯一の残念なことだった。最後にりましたが、この講習会の準備、運営にたずさわられた先生方、事務

局の皆様にお礼を申し上げます。

(会員・札幌市)



陳情書、要望書

意見書、回答文書

開発道路 静内—中札内線計画の再検討について (要望)

HNC S第三二八号

昭和五十八年八月十五日

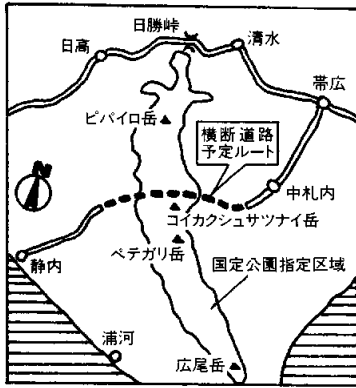
北海道知事 横路孝弘殿

(社) 北海道自然保護協会

会長 八木 健三

要旨

日高山脈一帯は、わが国に残された数



〈日高横断道路建設予定図〉

少ない原生的自然地域であり、学術上にも極めて貴重な地域であります。この貴重な自然を破壊することなく、人類の遺産として後世に残すことが、われわれに課せられた大きな責務であると考えます。

本協会は既にこの地域に計画されている「静内—中札内道路」の建設計画を廃棄するよう要請してまいりましたが、最近道は本道路の建設に進む方針を明らかにいたしました。これに対し、本協会は従来の基本的な姿勢にもとずくとともにとくに別記理由により、本計画の再検討を強く要請いたします。

理由

一、わが国において近年建設された幾多の山岳道路による自然破壊の事例から見て、本道路が日高山脈の原始的自然を破壊するおそれが極めて大きい。

二、最近完成した高見ダム、目下計画中の札内ダム・大規模林業園開発計画・さらに国有林施設計画との関連を慎重に検討し、当該地区の開発と自然保護



オオアカゲラの

きつお君

福地 大

ぼくは六月二十二日に虫取りに行った。いつも虫を取るコースは、山鼻川の道を登って、ざりがにの取れる広場である。そこには、ちやうどの、シートタテハが多い。もう少し上に行くとき大きな水たまりがあり、そこでキユーキユーッとなき声が聞こえた。初めは気にしなかったけど、何かがいるけいはいをかんで、だんだん近くに行ってみると、アカゲラどくとくにおいを出し、羽をばたつかせてないている幼鳥がいました。きつと飛びたつ練習に失敗したのだから、ぼくは考えました。それで、うちでしばらく、飛べるまでかうことにしました。

かっているおふんはするし、そこらへんをついたり、もうたいへんでした。えさはイチゴ、すいか、生肉、サクラ

ボ、アオムシ、パンなどでした。ほとんどなんでも食べました。

かつてみると意外に人なつこい鳥でした。ぼくやお母さんのむねやかたに止まってとつてもかわいいです。飛ぶのが上手になり、とてもなれて、「自然にかえたくない」と思いました。このまうちにおきかえすのがきつおのためだ」と思いました。それで外に慣らすため、朝早くにうちのなしの木のバードテーブルにはなしてやりました。キユーキユーとないていました。学校にいったもふあんで、じゅぎょう中に「もうとんで行つたかなあ」と思うとたまになくなりました。家に帰ってきたら、お母さんが「まだそこらへんにいるよ」といったのでさがしたら、ほかの木にとまっていた。夕方また、バードテーブルにとんでもどつてきました。それでうちに入れて、さいごの天ぶらのえさをあたえて外に出しました。うちの回りの木をうろろしてましたが、うす暗くなりかけた時、やつとどび立って行きました。またバードテーブルにきてほしいと思います。

(小学五年・札幌市)

(この文の作者、福地 大君は会員福地 郁子さんの長男で、たいへん熱心なナチュラリストです。オオアカゲラの難によせる気持がとてよく書けていますね。さし画は福地さんのお宅の木に止っているのをスケッチしたものです。

(八木健三・記)

を総合的に検討する必要がある。
三、さらに日高えりも国定公園指定という新しい事態に対応して、本道路計画について再検討の必要がある。
四、なお、以上のような問題を正しく解決するためにも、新しい道政のあり方として、北海道全域にわたって開発と自然保護を整合せしむるよう積極的に検討することを提言したい。

● 会員の皆様のお願い

皆様のまわりのかたがたへ、入会勧誘をお願い申し上げます。ただいま入会された方には、現在編集中の会誌「北海道の自然」第二十三号（野生動物特集）のほか、昨年度の会誌第二十二号（湿原特集）をあわせてお届けいたします。これを機会に大勢の方々にご入会いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

● 図書寄贈のお願い

自然環境、自然保護に関する図書を収集し、当協会の活動を充実させていきたいと思います。
どうか、当協会に図書をご寄贈下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

◆ 原稿募集

会員の皆さんの原稿をお寄せ下さい。身近な自然の歳時記や観察記録、自然保護に関する記事、当協会に対する意見でも結構です。原稿は八〇〇字前後でお願いします（長いものは、カットしますのでご了承ください）。写真やイラストも大歓迎です。ハガキでも結構です。お気軽に事務局へお寄せ下さい。

● 個人会費納入のお願い

個人会費を未納の方はお早目に納入くださるようお願いいたします。
個人会費は年額次のとおりとなっております。

- 個人会員 (A) 二、五〇〇円 (B) 一、五〇〇円
- 学生会員 一、五〇〇円
- 個人会員 (B) は同一世帯でたとえば夫婦・親子・兄弟など2名以上の場合、二人目から、送金先

北海道拓殖銀行 本店〇一七二五九
北海道銀行 本店一〇一四四四
郵便振替口座 小樽一四〇五五

● ネクタイピン頒布のご案内

このたび当協会では、北海道自然環境等保全条例制定十周年を記念して、コメ

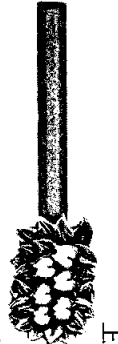
バツガザクラをデザインしたネクタイピンを製作いたしました。

つきましては、見本をご覧のうえ、代金・送料をそえて、お申し込みいただきますようお願い申し上げます。

会員定価 一個六〇〇円（定価一個八〇〇円）

送料 一個 一二〇円
三冊まで一七〇円
七冊まで二四〇円
十冊以上の場合三五〇円

送金先は「個人会費納入のお願い」の先金先と同様。



(この西率は80%割引したものです)

会誌バックナンバー頒布のご案内

当協会の会誌も一九六六年に第一号が発行されて以来、昭和五十七年度現在で第二十二号になりました。当協会誌は会機関誌としてのみならず、広く自然環境、自然保護に関する普及書として、関係各方面より高い評価をえております。残部がわずかな号もありますが、ご希望の方には次によりお頒けいたしますので、事務局まで頒価、送料をご送金のうえ、お

申し込み下さいますようお願い申し上げます。
(内容は次号から掲載します)

頒価
会誌一号〜十五号 一冊五〇〇円
十六号〜十八号 一冊八〇〇円
十九号〜二十号 一冊二、〇〇〇円
二十一号〜二十二号一冊二、五〇〇円

送料
一号〜二十号 一冊二〇〇円、三冊まで二五〇円、七冊まで三〇〇円
二十一号〜二十二号 一冊二〇〇円、二冊二五〇円、四冊まで三〇〇円

送金先
「個人会費納入のお願い」の送金先と同様。

昭和五十八年九月十日発行

〇六〇 札幌市中央区北一条西七丁目 広井ビル五階
発行所 社団法人北海道自然保護協会
電話 (〇一一) 二六二一六五八六(代)
(〇一一) 二五二五四六五(直)
郵便振替口座小樽 一四〇五五
北海道拓殖銀行本店 〇一七二五九
北海道銀行本店 一〇一四四四
発行人 八 木 健 三
印刷 札幌大同印刷株式会社
〇六一〇一 札幌市白石区厚別町 下野幌三二五九
電話 (〇一一) 八九七一九七(代)